



**平成15年6月3日**  
**薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会**  
**乳肉水産食品・毒性合同部会の内容につ**  
**いて**  
**(議事録を元に作成)**

- マグロは、メチル水銀の含有量が多いのに、どうして今回公表された中には入っていないのか？
  - 国の部会の中では、このことについて討論されたのか？
- この資料は、上記のことを第1回東京都食品安全情報評価委員会理化学専門委員会(水銀部会)で説明するために、事務局が作成したものです。

マグロについては、国の委員会の中でも、「なぜマグロを入れないのか」という議論はありました。

その内容について、説明します。



# マグロについて 1

## 【マグロの平均摂取量が低い理由】

- 刺身で食べられる率が非常に多くて、平均摂取量が少ないのではないか。
- 国民栄養調査では、**学校給食については、詳細に何を食べたか確認できないため、全員が同じ食品を食べていること**にして結果を出している。**学校給食では、比較的マグロを多く使用するため、この学校給食の食品構成では、少量のマグロを含んでいる。このことも平均に影響しているのではないか。**
- マグロの90%タイル値をみると、112.5gである。マグロは10,380人の人が食べているので、そのうちの**1,038人までの人は、112.5g以上、この日はマグロを食べていることになる。**
- もしかするとその量を毎日食べている人もいるかもしれないし、たまたま年に1回だけ食べたのかもしれない(個人の習慣的な摂取量については、1日だけの調査ではわからない。)
- 今回の**国民栄養調査の結果を用いて、個々の魚の種類で数値を当てはめるのは難しいところがある。**

•一つの理由は、学校給食にある。学校給食は、実際に何を食べたというのとは関係なく、年間に給食で主に使用する食材の平均値を使用している。このため、全員が同じ食品構成(ある魚1切れというものではなく、「たら2.1g」「まぐろ2.1g」「メルルーサ2.1g」……と年間主に使用する魚の平均値で構成)を使用している。つまり、学校給食を食べている人は皆、マグロを1人当たり大体1.5~2グラム程度食べているという量でカウントされている。



## マグロについて 2

- 摂食者の平均値は低いですが、通常食事としてマグロを食べるとすると刺身となり、1人分たっぷり盛り付けると100gぐらいになり、これはごく普通に食べてしまう量である。
- 判断する基準からすると、マグロが外れるのはわかるが、マグロを食べている人が4人に1人以上は今日でも、明日でも食べている。中にはたくさん食べている人がいると思うが、全く抜いてしまってもいいのか。
- 暫定規制値が設けられているが、マグロ等は現実的に越えている。なぜ外れているのかわからない。48年当時も「マグロ類その他を多食するものについても食生活の適正な指導を行われない」という一文があった。
- いろいろなリスクマネジメントの考え方からいけば、たくさんの方が暴露しているものについては、やはり慎重であるべきである。
- データが一番足りないのは、国民栄養調査で把握ができない摂取頻度である。今後ともどれぐらいの期間に何回ぐらい摂食されているのかというデータは調査したい。

・今回、マグロをたくさんの方が食べているので、全くこの中から抜いてしまってもいいのかという意見はでていた。

・この資料につけていないが、昭和48年に厚生省が水俣病の発生に伴って魚介類等の水銀について検討を行い、そのときにも通知が出ている。その時には、規制の対象にはならなかったが、マグロ類、その他を多食するものについても、食生活の適正な指導を行われないというコメントが添えられていた。この事実についてはあまり知られていないようである。

・「暫定規定値」とは、昭和48年に厚生労働省が定めた値で、「水銀をこの量以上含んでいる魚介類を市場から排除すれば、国民のほとんどが今までどおり魚介類を摂取しても水銀による人体への健康被害は生じない量である。」として決めたものである。

# マグロを入れない理由

耐容摂取量がどのレベルにあるのか？



特に懸念される胎児への影響、妊婦への影響はどれぐらいあるのか？



摂取量はどれぐらいになるのか？



その科学的データがある範囲で検討を行い、規制を変える必要はないということで合意



指導は何を行うのか？どのような形で行うのか？について検討



この手順で検討している。  
マグロは週5回でインドマグロがやっと耐容摂取量を越える。  
週5回食べるというのは、通常予測されない。

・今回、国民栄養調査しかデータがないということで、データがある範囲で検討を行っている。データに従って検討すると、平均値の低いマグロは、今回は週5日食べると耐容摂取量をやっと超えるぐらいの量になる。マグロを週5日食べるのは普通ではないので、今回の通知の中からマグロを除くことになった。

・「耐容摂取量」とは、人が一生涯にわたり摂取しても健康に対する有害な影響が現れないと判断される摂取量。